

園名

品川区立浜川幼稚園

テーマ

様々な表現を楽しむ



こどもの「すくすく×わくわく」をおうえん

テーマ設定の理由

幼児は日頃から日常の中で、様々なことに興味関心をもって自己表現をしている。また、園内だけでは体験できない外部講師によるコンサート等を体験したり、同敷地内にある小学校と連携を密にし、小学生との交流活動を通して刺激を受ける。そのことが、幼児の「なぜ?」「どうして?」等の探求心が広がったり、表現の中に幅ができたり、深められたりすることができると思う。

活動スケジュール

幼児の活動「様々な表現に触れ楽しもう」

- ・ 7月 6日 歌のコンサート
- ・ 10月 8日 クラシックコンサート
- ・ 10月31日 マリンバ音楽会
- ・ 12月19日 浜川幼稚園・小学校合同音楽会

活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・ 幼児自身が身体全体で音を聞いて感じたり、楽器の作りや音の出る不思議さを感じ、考えたりできるよう、プロ歌手やプロ演奏者の奏でる音に触れる機会を設ける。
- ・ コンサートで体験したこと、不思議に思ったことを遊びの中で再現できるよう(コンサートごっこ、廃材を使った楽器作り等)、空き箱や輪ゴム、テープ等の材料や素材を用意する。
- ・ 小学校と連携することで、幼児が興味関心をもったことに、より身近に触れたり体験したりできるような機会を逃さず設定する。

活動の内容

<5歳児>

- ・外部講師による「歌のコンサート」(7月6日)
迫力ある声量、演奏者が使用していた楽器「琴」に興味をもつ
- ・同敷地内浜川小学校5年生の音楽の授業参観(7月7日)
「琴」を扱う様子を参観し、5年生に扱い方を教えてもらいながら、「琴」に触れる。
- ・好きな遊びの中での製作(7月7日以降)
実際に触ったり音を鳴らしたりした「琴」を思い出しながら、好きな遊びの中で「自分の琴」を作ることを楽しむ
- ・外部講師によるマリンバ音楽会(9月9日)
マリンバとピアノによる演奏曲に合わせ、手拍子や足踏み等、身体を部分的に使いながら表現活動を楽しむ。
興味をもった幼児は、マリンバに触れたり、音を鳴らしたりしてみる。その後、遊びの中で楽器遊びに取り組む。
- ・外部講師による「クラシックコンサート」(10月8日)
バイオリン、チェロ、打楽器、ピアノ等の音楽鑑賞。また楽器ごとにどのように音を出しているのかを知る。
- ・音楽会(12月19日)への参加へ向けて
4歳児・5歳児合同で「ラデッキー行進曲」の曲に合わせ、自分の担当する楽器を演奏する。

<4歳児>

- ・外部講師による「歌のコンサート」(7月6日)
迫力ある声量に興味をもち、講師や友達と共に歌うことを楽しむ。
- ・外部講師によるマリンバ音楽会(9月9日)
マリンバとピアノによる演奏曲に合わせ、手拍子や足踏み等、身体を部分的に使いながら表現活動を楽しむ。
興味をもった幼児は、マリンバに触れたり、音を鳴らしたりしてみる。その後、遊びの中で楽器遊びに取り組む。
- ・外部講師による「クラシックコンサート」(10月8日)
バイオリン、チェロ、打楽器、ピアノ等の音楽鑑賞。初めて見たり聞いたりする楽器の形や音色を知る。
タンバリンにおける鳴らし方に興味をもち、遊びの中で教師が用意したり作ったりした楽器を使って遊ぶ。
- ・音楽会(12月19日)への参加に向けて
4歳児・5歳児合同で「ラデッキー行進曲」の曲で表現活動を行う。フラッグをもち、曲に合わせて踊る。

活動中の子供たちの姿・声、子供同士や子供と保育者との関わり

<5歳児>

- ・プロ歌手の歌声をはじめ、琴やピアノの音色にじっくりと耳を傾けながら、曲調に合わせて身体を揺らしたり、一緒に歌を口ずさんだりし、全身で音楽を体感していた。また、学級で歌う際、声を響かせて歌う楽しさや友達と声を合わせるとより素敵な響きになることを幼児自身が感じるようになった。ショーごっこの遊びの中では、友達と音楽に合わせて身体を動かしたり、友達や教師に表現を見てもらう嬉しさを感じたりしていた。
- ・琴の奏者の姿から、琴の弦や弦のはじき方によって奏でられる音の違いに気付き、不思議さを感じていた。
- ・5年生の児童に教えてもらいながら、実際に琴の弦をはじく爪をつけ、琴に触れながら音を出したことで、幼児がより琴に興味や親しみをもつことにつながった。
- ・幼児が琴に興味関心をもっている様子から、保育者は空き箱や輪ゴムを用意し、琴作りが出来る環境を整えた。その環境から、幼児は、「使う空き箱の大きさや形によって、音が違うよ！」「輪ゴムの数を増やしてみたらどうだろう？試してみよう！」等、ゴムの伸縮や数を変化させたり工夫したりしながら自分の琴作りを楽しんでいた。
- ・自分の琴が出来上がると友達や教職員等の前で、自分なりの表現で披露することを楽しみ、見てもらう喜びや、表現する姿を認めてもらう喜びを感じていた。

<4歳児>

- ・本物の楽器や手作りの楽器を使い、音楽に合わせて思い思いに鳴らしたり、友達と一緒に鳴らしたりして遊びを楽しんでいた。「楽器」に興味をもち、空き箱やカップ、紙コップ、ストロー等、様々な材料を組み合わせてオリジナルの楽器作りを楽しんでいた。自分の作った楽器で遊ぶ中で、「この音、気持ちがいい音。」「〇〇ちゃんと私の音が少し違うなあ。」等、「音」に興味をもち、繰り返し試して鳴らす楽しさを感じていた。自分たちで演奏する場を作ると、友達や教師を呼び、相手に見てもらう喜びを感じていた。
- ・タンバリンの鳴らし方(たたく、振る、こする)に興味をもち、遊びの中で様々な鳴らし方に挑戦して楽しむ姿があった。
- ・12月の音楽会に向けては、好きな遊びの中で、様々な曲に合わせてフラッグを持ちながら、踊ったり歌ったり、動いたりしながら自分なりの表現を存分に楽しんでいた。また、教師や友達の動きに刺激を受けて、同じ動きを楽しんだり、「こんな動きをしたらどうかな？」と、新たな動きを考えたりして表現したりする姿も見られていた。

活動の様子

5歳児歌のコンサートで初めて出会った「琴」。5年生に教えてもらいながら「琴」に触ることができて嬉しいな。



5歳児自分なりのペースで楽器に触れ、鳴らし方や音に関心を深める。



5歳児遊びの中で、空き箱やゴムを使い、イメージした琴作りに挑戦。



5歳児遊びの中でのショーごっこ。自分たちの表現を友達や先生に見てもらえて嬉しいな。

4歳児タンバリンや、教師が用意した手作り太鼓を使って、楽器遊び。友達や先生と一緒に鳴らしたり、聞いてもらったりして楽しいな。



4歳児フラッグをしながら、友達と踊ったり歌ったりして楽しいな。



振り返りによって得た保育者の気づき

- ・「コンサート」を実施したことについて、「聞く」体験のみならず、実際に初めて出会う楽器「琴」を見たり触れたり、音を出してみたりした体験が、幼児の興味や関心を高め、「自分なりに表現したい」「自分なりの表現を存分に楽しむ」という姿へつながった。プロ奏者や本物の楽器に触れる体験の重要性を改めて感じた。
- ・幼児の興味関心をもったタイミングを捉え、そのタイミングにおいて、幼児がより思考を働かせながら興味や関心を深めていけるような保育者の援助や環境構成が大切であることに気付いた。また、幼児の気づきや考えたことを学級全体で共有したり、振り返ったりすることで共感し合うことで、遊びの質の深まりにつながる。
- ・保育者がこれまでイメージしていた「表現」とは異なる表現方法について、活動を通して体現できた。行事に向けて取り組むのではなく、日々の遊びや生活の中での表現活動を、十分に楽しむこと、そしてその表現しているありのままの姿を十分に認めていくことが重要である。
- ・様々な楽器に触れたり、身体を使って表現したりする経験を通して、表現の形は無限大にあることに気付かされた。また、年齢に合った表現方法や自分たちができる範囲での演奏をすることの大切さにも気づき、12月の音楽会に向けての取り組みでは、4歳児、5歳児それぞれの幼児が無理なく楽しみながら自分たちの表現を楽しむことが出来た。